

STAGE 6

説明的文章(自然科学)

1	解答(P 35 ~ 41)									
	(ア) 2	(イ) A	4	B	1	(ウ) 1	2	(2) 3		
2	(エ) 生命活動	(オ) 4	(カ) (水は生物や地球にとって) かけがえない大切なもので、無神経に水を汚すようなことを(してはならない。)(30字)							
	(ア) (1)	(1)	(2)	(4)	(イ) 2	(ウ) 1	(エ) A	3		

解説

- 1 (ア) 傍線部の直後に、「地球の水は…循環をくりかえしているだけなのです」とあるが、この事実に対する驚きが「おそろしい」と表現されているのである。
- (イ) 空欄Aは、新たな水は生まれていない↓(さらに) わずか3%しか雨になっていない、というつながりである。空欄Bは、あとに「～気付いていたら」とあるので、仮定条件を表す「もし」があてはまる。
- (ウ) ここでの「唾する行為」というのは、第二段落の「環境の悪化をかえりみることなく周辺の水をかぎりなく汚して」しまったことを指している。そして、水はつねに循環しているだけだから、必ずそれは自分たちに返ってくることになるのだということ述べているのである。
- (エ) 水中の有用な無機質も生命と同じように循環し活動しているという内容を述べているので、「生命活動」があてはまる。
- (オ) 人間が自然をかえようとしているという内容から、自然を变えることができる力といった意味の言葉がふさわしい。したがって「生命科学」か「機械文明」となるが、「生命科学」には、自然を大きく変え、環境の悪化をもたらすほどの力はないことから「機械文明」を選ぶ。
- (カ) 明確に主張を述べている箇所はないので、「環境の悪化は天に唾する行為である」、「人間という一族が恐るべき力を手に入れて自然をかえようとしている」、「水の大切さを知っていれば、これ

- (ク) 傍線部と同じ段落に「アルコールを生産するのはコウボという微生物である」とある。したがって、コウボ菌の仕事は「アルコールをつくる」ことであるとわかる。具体的には、「糖をアルコールに変えること」となる。
- (ケ) 最後に、人間が長い年月をかけて人間にとって有用な生物をえらびわけ、性質や能力を高めてきたことが述べられている。したがって、はじめのうちは、現在のように「人間に都合のよいものではなかった」と考えられる。

2

ほど無神経に水を汚すことはなかったのではないか」という、文章のポイントになる部分を考え合わせてまとめる。「水は…」から始まり、「してはならない。」で結ぶので、「水は…汚してはならない」という主になる部分ができあがり、なぜ汚してはならないのか、という理由を述べればよいことがわかる。

- (ア) 第三段落が、機械よりも生物のほうがすぐれた力をもっていることの例を述べていることに注目すると、(1)の部分に入ることがわかる。(2)「それ」が何を指すかを考える。ここでは、「酒づくり」に欠かすことのできないのが「醗酵」であることから、(4)にあてはまるとわかる。したがって、「それ」は、直前の「もつと高度で巧妙な生物の利用法」を指すとわかる。
- (イ) 酸素などの生産をおこなうことができるのは植物だけなので、2の「生物はすべて」という表現は適当ではない。
- (ウ) 「途方」は、「めあて・手段」などの意味をもつが、「途方もなく」で「とんでもなく」の意味で使われる。
- (エ) 傍線部直前の「巧妙な」や「複雑な」などに続く言葉で、あとの「つくっている」「をつかつて」「である」に対応する言葉を考える。
- (オ) 傍線部直前の「発生装置」を指す。
- (カ) 選択肢はいずれも植物の特徴を示しているが、「光合成」のはたらきとは関係のないものを選ぶ。4の「草食動物に必要な食物」となることが、直接関係がない。
- (キ) 「たとえば、酒づくりである」という部分に注目する。すると「もつと高度で巧妙な生物の利用法を考え出した」ことの例が「酒づくり」であることがわかる。しかし、これだけでは条件にしたがった内容にはならない。そこで、傍線部の二段落前にある「人間は、人間に都合のよい生物をえらんでうまく利用するようになった」という内容もふくめてまとめるようにする。この利用の高度なものが「酒づくり」であると考えればよい。

STAGE 7

論述の資料読み取り問題

4	解答(P 42 ~ 49)									
	(ア) (例) グラフ2では、およそ半数の人が、「家族の日」に「何かしたい」と答えています。(38字)									
(イ) (例) 家族のあり方を問い直すきっかけとして、「家族の日」があるということを広く知ってもらい、「家族の日」を積極的に活用し、よりいっそう家族のきずなを強くして欲しいということです。(86字)										

解説

- 4 (ア) の直後に「『家族の日』の活動に前向きな姿勢の人も少なからずいるということがわかりました」とあるのに注意する。これは、「『家族の日』の活動に前向きな姿勢の人も少なからずいる」という内容を肯定するデータの読み取りが内で行われたことを示している。よって、グラフ2から、「家族の日」に何かしたい」と前向きにとらえている人の割合がどれほどいるかをまとめればよいとわかる。
- (イ) Bさんの発表のまとめである「『家族の日』があるということ」を広く知ってもらうだけでも、家族のあり方を問い直すきっかけとなり、大変価値のあることだと考えます」という部分と、Cさんの発表のまとめである「『家族の日』を積極的に活用し、よりいっそう家族のきずなを強くして欲しいと思います」という内容を、うまくつなぎ合わせて書く。

- ② (ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 4 (オ) 2

解説

② (ア) 「悪念」の「念」は「思い」のこと。したがって、「悪い思い」の意味である。ここでは井戸の側にいる子どもの服を剥ぎ取ろうと思ったことを指す。

(イ) 「易き」は、「簡単である」こと。「容易」のときの「易」の意味で使われている。「いと」は、古語でよく使われる言葉で「たいへん」の意味である。

(ウ) 「慰めて曰く」(慰めて言った)とあるので、慰めの言葉が入る。黄金の釣瓶をなくしたという子どもに対して、「嘆かないで、自分が井戸に入って取ってこよう」と言っている。

(エ) 「道理」は「物ごとの正しい道すじ、ことわり」のこと。子どもの服を剥ぎ取ろうとした者が、逆に子どものはからいで服を取られることになったことを「道理」だと言っているのである。

(オ) 「盗人の悪念を覚つて、いと悲しき気色をあらはして、泣く泣く居たりしが」とあり、子どもは、盗人のたくらみが分かって、わざと悲しんでいる様子を見せ、うそ泣きをしていた。したがって、2の「釣瓶を落としたため、困り果てていた」は、あてはまらない。

【口語訳】

ある井戸のそばに、子どもが一人でいたが、あちらこちらながめているうちに、盗人が一人走ってきて、この子どもを見て心に思ったことには「ああ、うれしい。この者の服を剥ぎ取ろう」と思って、近づいていくと、(子どもは)盗人の悪い思いがわかって、たいへん悲しい様子を見せて、泣いていると、盗人はこれを見て、何事かわからな

かったが、尋常な悲しみようではなく、気の毒に思われて近寄って「どんなことを悲しんでいるのか」と言えば、子どもが言うことには「どうして隠していられましょうか。心に悲しいことがあります。たった今、黄金の釣瓶を持って水をくもうとしていたところ、急に縄が切れて(釣瓶が)井戸に落ちてしまいました。何度も何度も探し求めたけれど、どうしようもない。どのように、主人の前で言えばよいでしょうか」と言ったので、盗人は、これを聞いて、顔には哀れで悲しい振りを表して、慰めて言った。「とても簡単なことだ。私が、(井戸の)底へ入って引き上げるので、あなたは、そんなに嘆いてはいけない」と。子どもは、これを聞いて、うれしくて涙をぬぐって頼んだ。それで、盗人は、着物を脱いで置いて、井戸の中に降りて、ここか、あそこか、と探している間に、子どもは(盗人の)着物を取って、どこともなく逃げ去ってしまった。盗人は、しばらく釣瓶を探したけれども、これは(結局)見つからず、こうしているうちに(井戸の)上に上がってみると、置いておいた着物も子どももなくなっていて、見当たらなかった。そのとき、自分で自分に腹を立て、ひとり言を言って「本当に、道理の上から、これを天道(神)がはからいなさった。その理由は、人の物を盗もうとする者は、(自分が)盗まれるものなのである」と言って、丸裸で帰った。